



サバンナの逸品、ボルガバスケット

ブルキナファソの首都ワガドゥグ郊外にある工房で、草木染をする職人たちがいる。彼らが染めているのはイネ科の植物サバンナグラスだ。染められたサバンナグラスは女性たちが働く組合へと持ち込まれ、軽くしなやかで型崩れしにくい「ボルガバスケット」に編み上げられる。持ち手に巻かれたヤギの皮は、隣国マリから亡命し難民施設で暮らすトゥアレグ族の人々がなめたものだ。

工房には草木染職人のサワドゴ氏がつくった「寺子屋」がある。ここでは家庭の事情で学校に通えない子どもたちが、無償で読み書き計算を教わっている。

サワドゴ氏のもとに、今年も「biga」のスタッフが仕事の依頼にやって来た。モシンの言葉で子どもを意味するbigaは、

ブルキナファソの手工芸品に魅了された日本人女性のグループだ。2011年の結成以来、ボルガバスケットをはじめ、オーガニックシアバターやアフリカの布を現地で買い付け、日本で販売している。売上げの一部は子どもたちの教育支援や商品の品質向上などに充てられる。

「支援先では学ばせてもらうことが少なくありません」とbigaの間瀬由理さんは言う。売上げで得た資金は常に循環させ、一時的な投資で終わらせないように気を配る。「その土地にあるもので何ができるのか現地の人々と共に考え、自発的にアイデアが出てくるように促したいです」。今後は女性が働く手工芸工房の併設された幼稚園を運営し、働くお母さんの応援をしていきたいそうだ。



ボルガバスケットを編む女性

- ★ ボルガバスケットを2人にプレゼント！
→詳細は38ページへ
- ★ ジューアール名古屋タカシマヤ「ひと手間のある暮らし展」(4月12～18日)にbigaが出展します。商品の取扱店と展示販売スケジュールはウェブサイトをご覧ください。http://biga.jp/

